

2008年(平成20年)10月17日(金曜日) 日刊

詳 報 第 3 回 建 設



ランナーフォーラム

11

「地方再生/新技術分科会」では、新たな技術や分野のノウハウを活用した本業の強化や、地域貢献をビジネスに結びつける個性的な事例を発信した。

■本業の受注が3倍に

「自社で開発した画像処理技術を総合評価方式の提案に活用し、土木の受注が3倍になった」。会津土建(福島県会津若松市)の営業一社長は「発注者が求めているものを的確につかみ提案することが大切」とアドバ

イスする。公共事業依存体質からの脱却を模索していた時期に、1枚の特殊なパノ

●地方再生/新技術分科会

ラマ写真を見て建設分野への活用が可能と直感した。最先端画像解析の技術者を世界各国から公募して研究に着手し、大学や企業とも連携しながら1年かけて連続自動画像作成ソフト「Mofix(ムーフィックス)」を開発。2000年

■新会社で介護事業

美保テクノス(鳥取県米子市)は、新会社「メディカ」を開設し、サポートを設立して中心市街地で介護事業を展開。介護のノウハウを活用して、建築工事の受注にも結び付けている。

「ケアタウンやよい」で居宅介護支援事業・グループホーム・地域密着型デイサービスを同時スタート。高齢者向け優良賃貸住宅「きらら白鳥」とも連携して介護の循環スタイルを確立した。

入澤博和取締役業務部長は「行政との調整、コストの削減など苦労はあったが、提案営業による工事受注、地元雇用の創出につながり、自らが地元有志企業とともに事業主体となった」と説明。同社の介護関連民間建築の受注は03年度以降で15件、23億円に上る。

■地域活性化が出发点

地域活性化を考える視点で「JR城端駅前再生事業」

城端町が補助金1億円を環を形成している。現在、

山県南砺市)の岩崎富雄顧問は、「街路整備の仮店舗用地の活用策が課題となっており、地元企業として公

ユージン建設(富山県

砺波市)は北野和輝、野理穂枝の両氏が「太陽光

風力発電システムの提案

・設置・販売」「生ゴミ

処理機の販売」などの取

り組みを紹介した。

太陽光風力発電は、富

山県の気候の特性として

冬は風が強く、夏は日照

時間が非常に長いという

ことに着目。太陽光と風

力を合併すれば一年中発

電できるのではないかと

考えた。産業創出機構の

中で研究開発しようとい

うことになり、陶磁器メ

ーカーと共同開発形態を

とり、試行錯誤を重ねな

がら開発した。

地域貢献をビジネスに



中心市街地に開設した介護施設「ケアタウンやよい」(美保テクノス)

(福島建設工業新聞社

相澤隆)

※毎週水・金曜日に掲載

します